

案件1. 平成24年度市民の選択の届出結果について

【事務局】 今年度支援対象登録団体は27団体あり、6,677人の方からの選択の届出がありました。平成24年度6月1日時点での18歳的人数が99,470人ですので、6.71%の方に届出いただいたこととなります。基金選択額が57,794円で、団体を選択した金額が5,209,941円。合わせて5,267,735円が届出による支援金等の合計金額でございます。

今回支援金希望額に達した団体は27団体中13団体、達しなかった団体は14団体でした。達した13団体のうち昨年度に続いての支援対象登録団体は10団体、新規団体が3団体でした。達しなかった14団体のうち、昨年度に続いての団体が9団体、新規団体が5団体。届出者数は、昨年度より246人減り6,677人で、届出率は、0.3%減り、6.71%となりました。

この制度では、団体の支援金希望額を上回った超過額は、執行されず不用額として処理します。今年度の超過額は、昨年度より586,150円減り、団体への交付予定額は、昨年度より575,121円増え、3,698,944円となりました。超過額が少なかったということは、支援対象登録団体による選択の届出を促す活動が、昨年度の広報活動の結果をふまえ、効率的に行われたのではないかと、推測しています

支援対象登録団体へは8月27日付で届出結果を知らせるとともに、変更申請についての案内も送りました。以上が今年度の報告です。

案件2. 生駒市市民活動支援金の登録申請内容変更承認申請について

案件3. 生駒市市民活動支援金交付決定について

【事務局】 変更申請を出された団体は4団体です。提出された団体の変更箇所について説明をします。

団体名「NPO法人 幸せな家庭環境をつくる会 京阪奈支部」

変更の概要として、①積木贈呈数を少なくし、制作を団体の有志及びボランティアで実施、②生駒積木フェスティバルの講師、アルバイト、チラシ配布などを団体の有志及びボランティアで実施、③チラシ等の印刷を協賛先で無償作成するということです。収入については、積木の販売を予定していましたが、試作の段階で今回は販売を見合わせることとなり、事業収入がゼロとなりました。支出につきまして、市民の選択届出の経過及び結果を判断され、当初予定していた贈呈先の団体数10団体で、1団体について2,000個を予定していましたが、8団体に減らし、委託料算出の積木の個数が減ることとなりました。賃金・報償費として計上されていたアルバイト、講師、補助員の業務を、団体の有志や無

償のボランティアで実施されることとなり、予算額がゼロとなりました。また、協賛先から印刷製本を無償で受けたり、委託料にある積木製作費の単価を半額に割引いてもらったり、団体の折込チラシを、無償のボランティアによる配布にするなどされ、協賛金に代わって役務の提供を受けることにより、事業費が大きく減額となりました。

団体名「いこままプラス」

変更の概要として、ホールの変更、アルバイト人数の削減、印刷費等の削減となっています。

開催場所となるホールを、当初予定の大ホール（定員450名）から小ホール（定員200名）へ変更されました。このことにより、使用料が48,400円の減額となりました。また、看板を手作りとし、パンフレットにかかる経費を縮小し、印刷製本費105,000円の減額をされました。通信運搬費では、送付先の精査と電子メール等の使用により、50%減の5,000円ということで変更されました。

団体名「市民公益活動団体ほたる」

変更の概要として、当初予定していた「大規模ビオトープにおけるほたる飼育実験」のうち、ビオトープの管理を生駒市の施設である「高山竹林園」との協働で実施することとなりました。

この制度は、支援対象経費の2分の1の補助金ですが、残りの2分の1の補助金を生駒市の別の補助を受けることはできませんので、その活動を割愛したという内容になっています。この団体は、年度当初より飼育したほたるを飛ばし、ほたる鑑賞会を開催する場所を探していました。申請書を出された段階では民間の場所、もしくはどこかの川ということ想定していたようです。そういう場所を探していたところ、5月から6月に「高山竹林園」より場所の提供と資材の提供をしましょう、協働でこのビオトープの管理を行っていきましょうということになり、消耗品が約11万円減額となりました。また「高山竹林園」の敷地内の一角ではほたるの飼育実験を、団体のみ事業として実施していくなかで、今年の夏の厳しい暑さの中、水の水温設定や水流調整など飼育に非常に手間がかかることが判明し、飼育場所へのスタッフの交通費及びガソリンの燃料費が増額となっております。

団体名「生駒小年少女合唱団」

変更の概要はコンサート会場の変更です。今回の事業では、4回のコンサート等の活動の計画を立てていました。そのうち現時点で2回が終了しています。変更内容の主な点としては、12月開催予定のファミリーコンサート会場のホール規模を小さくし、使用料の減額、それに伴い報償費、消耗品費を減額し、約115,000円減額という内容になっています。

【谷野委員】 「生駒少年少女合唱団」ですが、コンサート会場を小さくするということがありますが、前回参加人数が十分あり、ホールを小さくしても大丈夫なのかということと、食糧費の当初の予算が13,000円から2万円になってますが理由があるのでしょうか。

【事務局】 当初計上すべき講師へのお茶代を忘れていたということです。

【上田委員】 実際単価にしたら、講師へのお茶と昼食代で500円なので妥当な線かと思えます。

「NPO法人 幸せな家庭環境をつくる会 京阪奈支部」ですが、大幅な削減をしてる中で、会場使用料が1万円増されています。フェスティバルということですが、団体も少なくなっているから大きな会場に変更する必要はないと思いますが、何故増えているのですか。

【事務局】 フェスティバルは広く市民も対象にして、積木を送っている8団体が実施側になって広く市民の方を迎えるというイベントですので、フェスティバル自体の事業規模の縮小ではありません。申請当初は市内の公共施設という想定で、5万円と計上をしていましたが、実際に会場を予約する段階で、付帯設備などの費用詳細が判明し1万円の増額となっています。

【上田委員】「ほたる」ですが、ガソリン代がかなり増えていて、交通費も増えています。内容の確認はされているのでしょうか。

【事務局】 団体にも高山竹林園の担当職員にも、同一事業への市からの複数の補助を出すことはできないということを説明し、事業精査をきっちりするようということをお伝え、現場の確認もしてきました。昨年度もこの団体は、交通費の明細についてはきちんとされており、報告書に、いつどのような活動をしたか記載し、それに伴って、明細と照らし合わせるということをしています。

【上田委員】 あと1点ですが、今回の変更申請は4団体でしたが、希望額より少ない団体が多いです。例えば、「生駒えんゆう会」であれば、215,500円が希望額で、3万円強の支援金ですが、事業計画の変更なしに全て自己資金で対応できるということなのでしょうか。

【事務局】 「生駒えんゆう会」が今回提案いただいている事業は、団体としては3回目の実施になります。1回目は団体独自で実施、2回目が昨年支援対象事業として実施しましたが、昨年度の実績としては支援金希望額が21万円のところ、26,385円の交付で、自己資金や協賛金を得て実施をされました。ですので、この団体のみならず、支援額満額に達しなかった団体も、今までの実績から、自己資金額や協賛金などを増やし、実施しているものと理解しています。

【上田委員】 実績のある団体はよくわかっていると思いますが、新規の団体はその旨を伝えたほうがいいのではないのでしょうか。

【事務局】 団体番号2「ブナッコクラブ」も新規団体ですが、どういう削減を考えているのかと尋ねたところ、活動はそのまま行い、消耗品を減らすということでしたので、変

更申請ではなく、決算の実績報告時に出してくださいというやりとりをさせていただいてます。

【仲川委員】 「生駒えんゆう会」については、変更申請は実績があるからいらぬという解釈でよろしいですか。変更申請、事業規模をどうするかという申請はいらぬのですか。

【事務局】 事業変更は、たとえば支援金が集まらなかったから事業規模を小さくするか、事業を中止するか、対象を変えるなど、当初計画事業を変えることになれば、選択した市民のみなさんに説明が必要なので変更申請を出してくださいという案内をしています。ですので、支援額が少なくても、当初の予定通り事業を実施するというのであれば、それは変更申請の対象ではないと団体に伝えています。

【中川会長】 選択者の延べ人数というのは、1団体であろうが、3団体であろうが全部1人としてカウントしているのですよね。

【事務局】 7, 755人というのが延べ人数です。6, 401人が実人数になります。基金を選択された方が71名。今回の無効届は205人。たして6, 677人が、今回の支援制度への届出人数になります。

【中川会長】 団体ごとの届出結果というふうにとった場合、たとえば、1団体選択者数が74人あるというのは、届出権からいうと3倍にカウントできるのではないかということです。だから選択者の延べ人数だけで、この団体に届出された届出意思というのは見えません。3団体選択された方も1人としてカウントしているわけですから。ということは、2団体選択された方は2倍として、1団体選んだ方は3倍にカウントすると合計届出人数が出てきますよね。

【事務局】 会長がおっしゃった方法も一つの方法かとは思いますが。今年度は8月27日に届出率をお知らせしていますので、来年度以降については検討していきたいと思えます。

【中田委員】 基金は去年いくらでしたか。

【事務局】 61, 152円でしたが、利子がついていますので、昨年度の基金への積立て額は61, 202円です。

【中川会長】 それでは変更申請4件については承認するというのでよろしいですか。

<一同承認>

【中川会長】 では、次に支援金の交付決定についてですが、この額で承認するというのでよろしいでしょうか。

<一同承認>

案件4. 支援制度愛称応募状況及び一次審査について

案件5. 支援制度愛称選考について

【事務局】 昨年12月に第3回の審査会を開催時に、この制度の名前が長いので愛称募

集したらどうかという意見を頂きましたので愛称募集をしました。募集の期間としては、選択届出期間に合わせ、6月29日から8月10日まで行いました。募集のPRは広報6月15日号、支援対象団体事業紹介冊子、市のホームページ、ららポートの情報メールサービス及びツイッターで行いました。応募総数は58件でした。その中から事務局で1次審査をさせていただきました。その方法として、制度の内容に矛盾がない、身近で親しみやすい、イメージしやすい・わかりやすい、呼びやすい、既存の名称にないかという5つのポイントから審査をし、6作品選びました。

①「こまさぼ」

愛称を考えた理由：生駒のこまとサポートのさぼを入れた。

②「カッセカッセ生駒」

愛称を考えた理由：「カッセカッセ」と応援する気持ちと活性化して欲しいという想いが一緒になっています

③「MYSP いこま～マイサポ生駒～」

愛称を考えた理由：英語で支援するという意味の support（サポート）と、私の生駒 my IKOMA（マイ イコマ）を合わせました。大好きな生駒の町を応援する気持ちを表現しました

④「iKOP(アイコップ)」

愛称を考えた理由：生き生き生駒 (i) 活動 (K) 応援 (O) プログラム (P) の略称。もしくは市民活動団体支援として生駒 (iK) オペレーション (OP) と読みかえられます。昨年度分は iKOP23、今年度分は iKOP24 の表記も可能

⑤「ゆめだま」

愛称を考えた理由：夢をふくらませたフーセンをいっぱい飛ばそう！

⑥「コモン・ポート」

愛称を考えた理由：コミュニティとかコミュニケーションなる言葉の母ともいうコモン。ポート（避難港、基地）、サポート（扶養、支援）の双方をミックスした意味でリズム感のあるポートとした。

この中から1つ選考いただき、その作品については、賞状と5,000円の記念品を受賞された方に贈呈予定しています。6つ以外でもこれというものがありましたら、それを加えて選考お願いしたいと思います。

【宮西委員】 6つ以外では「みんなで参加」。愛称とは少し違うのかも知れませんが、ロゴとして綺麗かと。応援する人とされる人、この制度はまさしく参加することに意味がある、という応募理由も良いのではないかと思います。6つのうちでは、①と③が似たような言葉の響きですが、「マイサポいこま」というかたちではっきり生駒とあったほうが良いのかと思いますので、どれを取ってもいいのかという気がしますが、字の雰囲気などで③がいいのではないかと思います。

【上田委員】 改作は全然だめなのですか。出されたものをそのままでないといけないのですか。

【事務局】 募集の際に補作する可能性もあるとしていますので大丈夫です。

【上田委員】 たとえば③の「MYS Pいこま ～マイサポ生駒～」ですが、全てでいくと「MYS Pいこま ～マイサポ生駒～」、サブタイトルが「～マイサポ生駒～」ですが、前段部分は要らないと思います。「マイサポ生駒」でその「生駒」が、例えば漢字なのかアルファベットなのか等や、「マイサポ」も平仮名にするのかという選択はあるのですか、事務局側には。

【事務局】 事務局でもローマ字と平仮名の部分はいらないという話が出てました。

【上田委員】 「生駒」が漢字ということも、堅い感じがすると感じました。「こまさぽ」の平仮名のほうが可愛いと。ただ「こまさぽ」の「こま」が生駒を表しているということは、応募理由を見ないと分からないという気がします。①「カッセカッセ生駒」の「カッセカッセ」は「かつ飛ばせ」の略だと思いますが、応援の一形態で野球の場合でよく使われていますが、それと「活性化」をかけている、というのは少し分かりにくいと思います。③は「マイサポ生駒」だけでいいかと思います。「iKOP」については、「iKOP」自体がひとつの意味を成していて、それぞれのアルファベットがまた何かを表しているというのであれば、非常に意味があると思いますが、「iKOP」に何も意味がないということからすると好ましくないと思います。「ゆめだま」というのは、夢をふくらませた風船ということで、そのままなので、これはこのまま対象として考えても良いと思います。「コモン・ポート」なのですが、ららポートがあるなかで、また違うポートを使った「コモン・ポート」はどうかという気がしました。

それ以外では、「ハートフルパレット」の色を選ぶという感覚は非常にいいと思いました。

【中田委員】 上田委員がおっしゃったことに同感ですが、「マイサポ生駒」ははっきりとしてイメージしやすいし、親しみ易い。第一印象を言うと漢字だと少し堅いので平仮名がいいと思います。それと、つながりというキーワードが欲しいという気がしたので、「絆」というのは漢字ですがいいのでないかと思いました。

【谷野委員】 まず6つの中なのですけれども、「マイサポ生駒」が分かりやすい表現かと思いました。「ゆめだま」というのはあまりにも一般的すぎると思いますが、「ゆめだま生駒」というふうに生駒が付くと少し綺麗な表現になるかと。他では「ハートフルパレット」も綺麗だと。「ハピネスたけまる」もいいかと思いました。

【仲川委員】 まず使うときに「市民活動団体支援制度ハピネスたけまる」というふうに使えますかね。これだけ聞いても分からないかと思います。私は6番の「コモン・ポート」が「ポート」ではなくて、「サポート」になっていたら良いと思ったのですが、基地にされたのですね。サポートでなくて。そうすると、この6つの中では「マイサポいこま」です。

【中川会長】 ご意見をお聞きして一番良いというのが集まったのが、③のようですが、「マイサポ」は良いのだけれど、「生駒」は平仮名にするか、あるいは何か別の処理をした方が良いのではないかということでしたね。「カッセカッセ生駒」も「iKOP」も「ゆめだま」も支持がなかったです。「マイサポ生駒」でしょうか。「生駒」を平仮名にするか、ローマ字にするかどうしましょう。

【仲川委員】 書いてみると平仮名の方が良いのでは。漢字で書くより柔らかいですね。

【中川会長】 それでは、愛称「マイサポいこま」で、「生駒」を平仮名にすることを審査会の意見とします。よろしいでしょうか。

<一同承認>

6. その他

【事務局】 支援制度がスタートして2年目となりました。先ほど報告しましたが、市民の届出率が下がり、浸透が進んでいないのかと事務局は感じております。つきましては、今年度の支援対象登録団体を対象として、支援制度を盛り上げていくにはどうしたら良いかということをお話し合う、アイデアを出し合う場として合同ミーティングを企画しております。開催日時は、11月17日午後1時半から4時まで、テーマは支援制度のPRについて、それぞれの団体で実践された方法の情報交換を行い、それを対象団体で共有のものとして、協力できるものは協力していくということをテーマとして考えています。コメンテーターとして、審査員のみならずにもお願いしたいと思っています。

【中川会長】 では次に、今後もう少し発展させていくにはどうすれば良いかという、アイデア・ご意見ございましたらうかがいたいと思いますが、私からお聞きしたいのですが、この制度を利用して活動されている団体は、この活動は生駒市の支援制度を使って事業しているということを何処かで告知しているのですか。

【事務局】 団体には事業実施する段階で、たとえばチラシ等にもその文言を入れるように協力依頼をお願いをしています。また、6月からツイッターを行うことに合わせて、それぞれの団体の実施事業のときに、ツイッターでありますとか、ららポートの情報メールサービスに情報掲載しませんかという案内を送っています。事務局から発する情報については、今年度の支援対象団体が事業を実施されます、もしくは参加者を募られます、ということをお知らせしております。ただ、紙媒体等情報媒体を使わない活動と、なかなか発表する機会がないという話も聞いています。

【中川会長】 紙で案内しないという活動はありますか。

【事務局】 活動の参加者がある事業と、ない事業、例えばメンバーによる草刈活動等があります。団体のニュースレターに書いたり、ということをお心掛けて下さるようにも協力をお願いしております。ただ、正確な数は、27団体中何団体がどういう形で出しているか、というのは把握できておりません。

【中川会長】 今後申請が出た段階で、「マイサポいこま」の事業ですということを書くことを義務付け、それは何処に記載されますか、どういうところに、どういう形での載せますか、ということを経前にもらったらどうでしょうか。神戸市の市民活動の「パートナーシップ活動助成金」もそれが義務付けられています。

【宮西委員】 このお金を使わせていただいて、こういう活動をしましたというような形でホームページ等に載せるとかどうでしょうか。共同募金でしたら、「ありがとうメッセージ」というものがありますが、助成いただいて、こういうことに使わせていただきました、という文章と写真などを載せています。そういう形でできるかどうかはわかりませんが、専用のページがあって、この活動はこの支援金を使ってこういう活動をされました、というように目で見ても分かるようなものが出来たら、活動のPRにもなると思いますし、こういう活動に使うなら、来年やってみようかなというように思ってもらえたらいいと思うのと、団体が増えると、今後も届出してくれる人も増えると思うので、団体を増やすためにも、これに申請したものが、お金もそうですが、市のホームページなり媒体を使ってPRが出来れば、活動のPRにもなるかということで登録団体も増えてくれれば良いのかと思います。

【上田委員】 各団体から成果報告会のようなものはされていないのですか。

【事務局】 行っていません。

【上田委員】 奈良県の地域貢献活動助成事業では、実施した事業を各団体で成果報告として一般の方に開放して、いろいろ意見を言ってもらう、質問してもらう、そういう活動をしているということをおわかっていただいでいて、一般の方からの意見を実施団体も吸収していけるということを行っております。

話は変わりますが、基金は、積立ての用途というか使い道は、啓発等をされているのですか。

【事務局】 現段階では、大枠として制度運用に役立てるということで、審査会でその用途について協議いただくこととなりますが、現時点では約61,000円という金額ですので、もう少し基金が積立てられてから使い道を考えるということが、昨年度の審査会での話となっています。愛知県の一宮市では、市民活動団体へのサポート用品として備品の購入を考えているとは聞いています。現段階では少額なので、これをどういう運用をしていくのかということについては、ある一定の額が積立てられた段階において、審査会で協議いただけたらと思います。

【中川会長】 1つのアイデアとしては、ある程度基金が積立てられた段階で、この制度を広く市民に理解してもらうための催物をすることは許されるのではないかと思います。いつまでも税に頼ってはいけな、ということその使い方も含めて一緒に広く考えませんか、そこからはじめてもいいのではないのでしょうか。

【中田委員】 届出率が去年よりも下がったのですが、職員の意識の問題もあるかと思

ます。市内居住の職員もおりますので、職員が旗揚げ役となるような検討も必要かと思えます。

【谷野委員】 11月17日の合同ミーティングでのいろいろな話し合いも大切だと思いますが、一般市民の方の参加をたくさんしていただくために、例えば合同ミーティングにプラスして一般の方の参加を受けていくことで、いま、定年を迎えた方が、どんなことに興味があるか、例えば、エンディングノートの書き方であるとか、60歳からのライフプランであるとか結構そういうみなさんがこの支援制度と違った一つの研修会を設定して、そこに各団体さんに、そういうブースで参加して下さいというような、活動している人以外の人にも集まってもらえるようなものができたらいいのではないかと思います。この頃は定年を迎える団塊の世代の方が結構いますので、興味のあるテーマというのがあれば、来て下さるのではないかと、そんな風に思いました。

【仲川委員】 なかなか制度の広報というのは難しくて、谷野委員がおっしゃったように、この機を利用してブースのような、こんな活動をしていますというものやボランティア募集という団体があれば、そのときに、そこへ行って話すことが出来るとか、やはり潜在的に探している人が多いです。どこに行けばマッチングできるのかという人がおられ、やっとマッチングできたというような方がどんどん増えてきています。大阪であれば、ボランティア情報誌が無料で地下鉄の駅などに置いてるので、ボランティアが何をしているのかという情報が手に入ります。実績報告交流会のような催物はされてないでしょうか。

【事務局】 この制度においては行ってませんが、ららポートには61団体が登録しており、その登録団体が一堂に集まり、「ららまつり」をこれまでに3回実施しました。ブースでの活動紹介、活動体験などを実施し、市民の方と団体の方を合わせて約700人来られる事業となりました。

【中川会長】 こういうことを実施する際に、壁を感じていることは、市がPRをしても届かないのです。市がしていることだからと言って逆に見ないです。それを突破しようと思ったら、駅の有料掲示のところに貼ってもらうとか、コミュニティコーナーのようなものを持っている百貨店があるので、そこに貼らせていただくなど、そういった企業に露出することの方が効果はあると感じます。そのために基金のお金を使うなどは許されるのではないのでしょうか。駅のPRポスターも同様ですね。

今お話がありましたように発表会をやるのもいいのですが、前半は市が用意する会場で、費用も市がもち、フォーマルに行って、後半は実行委員会のようなものを組織して、交流パーティをしてはどうでしょうか。市は引いて、市民の実行委員会で自由にしてもらい、そこでいろいろな団体がお互い交じりあって、情報交換をしたり、知り合い交換をしたり、もっとサロンのように盛り上げて良いのではないのでしょうか。生駒市内のNPO同士がお互いにもっと知り合い、そこで手に入る知識とか、知恵というものは結構大きいと思います。同等の規模のNPOが同等の規模のNPOと付き合うというのは大事だと思います。

【事務局】 6月30日にシンポジウムを開催させていただき、支援対象登録団体から、「協働を進める市の本気度を感じた」、「こういう機会は必要です」というようなコメントをいただいたり、一宮市の事例を聞いて非常に感動し、だから生駒でもこういうことがあれば良いと思うので、自分に出来ることがないのかいろいろ考えていますという声もいただきました。それが後押しになって、今回この合同ミーティングを開催させていただくことに繋がりました。

合同ミーティングについては、各団体につき1名から2名お越しく下さい、名前をお知らせくださいということでご案内しております。こちらから見ても頑張って活動された団体さんと、活動の方法が分からなかったという団体さんが意見交換をしたり、もう何十年も活動しておられる団体さんと、今年から初めてこの制度があるから団体を作ったという団体が出会う場になって、この制度だけでなく、コミュニケーションがとれるような場にもしたいと思っております。もう少し参加団体の顔ぶれや人数希望を見て、具体的な進行は進めたいと思いますが、基本的には団体さんからのアウトプットを中心としたいと考えております。

【中川会長】 分かりました。いろいろなアイデアを出していただきましたが、出来ないことも中にはあるかもしれませんが、市で出来るものがあれば検討してください。では、以上でこちらがお預かりしている案件は終わります。